

# 令和元年度第1回福井県嶺南地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和元年8月27日（火）14時15分～  
場 所：リブラ若狭2階 講堂

## 1 開会

## 2 あいさつ

- ・福井県交通まちづくり課 西野課長

## 3 報告事項

(1) 福井県嶺南地域公共交通活性化協議会規約および委員の変更について

- ・事務局より資料説明
- ・新委員自己紹介

## 4 議事

(1) 嶺南地域の交通施策（案）について

- ・これまでの検討状況、骨子案等について事務局より資料説明

(意見交換)

川本会長

- ・骨子案についての承認と、事業内容・主体・スケジュール・達成状況を評価する具体的な指標について意見をいただきたい。

西日本旅客鉄道金沢支社

- ・これまで勉強会等を通じ市町や県の方と話をさせていただいているが、骨子案についてはニーズや地域の方が感じている点などの内容も含め、受け止め理解している。
- ・基本目標1に「存続可能」と記載されているが、国土交通省では「持続可能」という表現を用いており、こだわる理由がないのであれば、標準的な「持続可能」という記載方がよいのではないかと。
- ・骨子案については概ね理解する一方で、具体的な中身になると、地域の中で何ができるのかという視点が非常に重要であり、当社として何ができるのか勉強しなければならないと考える。一方で、増便や快速列車の運行、ハード対策など、ハードルが高い項目もあり、これらの実現には交通事業者の経営判断が伴うことをお含みおきいただいた上で、表現の仕方を考えていただきたい。事業の記載や、実現に向けて勉強していこうという趣旨は理解するが、この協議会において実現する方向での話として確約することは難しい。

## 事務局

- ・バスなどは危機的な状況だということで、より厳しい表現にしているが、「存続可能」より「持続可能」という表現がよければ変更したい。

## 川本会長

- ・前向きに捉えて将来に向けてやっていこうというイメージを持つのであれば、「持続可能」という表現のほうがよいのではないか。文言を修正したい。

## 事務局

- ・施策の表現の仕方について補足させていただきたい。これまで何度もJRの方も参加していただき、市町の方々と議論を重ねてきて、ご意見をいただいてこのような形を考えた。JRの方にも色々な事情があるとのことで、表現の仕方として、「順次検討することとし、実現可能なものから着手する」、「必要に応じて見直しを行う」という文言を加える。網計画に期待しているところが大きいということもあり、計画として、方向性・やりたいことは盛り込んでいきたいという思いがある。その両方を考え、事業の中身の表現を作らせていただく。ただ、今後も表現については相談させていただきたい。

## 川本会長

- ・事業計画にあたっては、固まっているものではなく、順次変わっていくものということ、できることできないことは当然あるわけで、そこについてはさらに具体的な検討をしていくという意味の文言であるというご理解、共有認識を持つということでしょうか。

## 西日本旅客鉄道金沢支社

- ・その点についてはよく理解している。一方で、5か年計画の中で明確にできないものは内容を薄くし、逆に選択と集中として可能なものは濃度を濃くするなど、より方向性を具体的にしていきたいと考える。「持続可能性」が重要なのは弊社も同じであり、地域の方と一緒に考えていくことが、この5年の大きな役割であると認識している。その点では当社として何ができるのかということを考え、可能なものを提案していく考え。

## 川本会長

- ・他になければ私の方から。「新規・継続」は「拡充」というものもあるため、「新規・継続・拡充」と3つで整理しているのであればそのように記載してはどうか。位置的にも例えば、記載する場所も新規であれば左に寄せる、継続は中央にするなど揃えてはどうか。事業主体についても、同じように場所を決めてはどうか。
- ・他に意見はないか。

## 西日本旅客鉄道金沢支社

- ・今回このように網形成計画を検討する機会をうまく活用し、地元のニーズにあった「利便性の高いダイヤ設定」の実現に向けて取組む必要があると認識している。この実現に

向けては、鉄道事業者だけでできることではなく、県や市町の方の力をお借りし、一緒になって取組むものだと考えている。そういった点でも前向きな議論をさせていただきたい。

#### 川本会長

- ・事業5の「公共交通利用を促進する意識の醸成」なしに、事業者や市町だけが頑張っても持続可能にはならない。サービスの享受者が何も変わらないのでは、ということで、モビリティマネジメントには住民が主体に入るのと同様の提案になるかと思う。ダイヤの設定についても提供する事業者だけでなく、市町や地域の方との話し合いの中で調整しながら決めていく余地も色々ある。計画に記載するかどうかは別として、ご意見としていただけておく。

#### 小浜市

- ・骨子案についてはこれでよいと思う。「観光周遊手段の提供」のところだが、要望という形になるが、市町が事業主体になっているものが多い。周遊となると各市町にまたがるので、県も主体的になってやっていただきたい。

#### 事務局

- ・主体に県がなくても、県が全く入らないというわけではない。支援はさせていただく。要望については承る。

#### 小浜市

- ・骨子案については、このようにまとまっていくものと思っている。施策の方向性、それにぶら下がる事業、それにリンクする形で評価する指標というのがわかるように、何をしているからどうなっていくというのが見えるようにしたほうがよい。
- ・市町の状況も異なる中、具体的に誰がどんなスケジュールで取り組む、財源をどうするかなど、網形成計画ではそこまで描かれないということは当初に聞いているが、肝心なのはその部分であり、実施計画が見えるものでないと、2年目、3年目にどのように推移していくのかがわからない。協議会の規約にも「網形成計画の事業の実施に関すること」とされているが、協議会として今後どのように事業を推進していくつもりか説明していただきたい。

#### 事務局

- ・協議会が直接事業をすることはないと考えているが、進捗管理は協議会の役割だと思っている。事業スケジュールについては市町と話をしながら優先順位をつけてやっていきたい。今後、詳細なところをつめていきたい。

#### 小浜市

- ・ものごとを動かすには予算がつきものである。どのように予算を組むのかというと、新

幹線敦賀開業までの時間も限られている。今後の進め方も感じさせられるような計画にまとめてほしい。

#### 事務局

- ・表現についても考えていきたい。

#### 川本会長

- ・各市町でも事業を展開するときに見える形、個別に取り組み結果をチェックできる指標があるとよいと思う。最後の進捗管理のところにもう少しその内容を盛り込めるとよい。
- ・バスについてはそれぞれの事業者や市町の個別の積み上げがあるのでわかりやすいが、それ以外のものについても、積み上げてこれぐらいということを見ながら、協議会や勉強会の中で管理しながら整合させたり、強調させたりしてやっていくということを一丁に書いておくことが必要かと思う。

#### 事務局

- ・方向性や今後取り組みたい内容について、困っていること、やっていきたいことなど、思いを盛り込んでいきたいと思っている。先ほどの前提条件はあるが、その中でどのような網形成計画の中でやっていくかということを感じ取れるようなものにしていきたい。

#### 高浜町

- ・骨子案の具体的な施策の5「公共交通利用を促進する意識の醸成」のところで、「決まった路線にしか乗らない高齢者向け利用ガイドや乗車体験を企画」というのは、他と比べて具体的すぎるので、例えば利用者に応じてバラエティに富んだ利用方法を提案できるイベントを企画など、ぼかした表現でもよいのではないか。

#### 事務局

- ・高齢者の方は公共交通機関を使っていくところが限られている方が多い。行くところが決まっている方について、わかりやすいダイヤを渡す取り組みをしている市町もあり、それをヒントに書いたが、表現については変更したい。

#### 福井運輸支局

- ・網形成計画の内容は濃淡をつけるべきだと思う。骨子案の施策のところも、具体的に書きすぎではないか、書きすぎると周りの方に影響があるのではないかと感じている。検討内容については随時見直していくということだが、それを踏まえた書き方にできないか。

#### 川本会長

- ・1枚にまとめた骨子案のみが出る形になるため、文言の書き方には工夫の余地があるとのことだと思う。実施のレベルが違いすぎないように再確認する必要がある。

## 事務局

- ・「検討・実施する具体的な内容」とあえて記載している。県や嶺南地域としても、小浜線にしっかり走ってほしいという思いもあり、書かないと書かないで、違うハレーションが起きる可能性もあり、このようにさせていただいている。

## 中部運輸局

- ・小浜線増便や時間短縮など、便利になることを否定することはないだろうが、利用促進の方策とセットで考えないと実現しないのではないか。事業者だけ、自治体だけでは難しいと思うので、事業者と自治体と住民の方も一緒になって、どうしたら実現できるのか利用促進の方策も検討していただきたい。

## 事務局

- ・県でも議論しているが、いろいろなところからこうしてほしいという話は届いている。網形成計画としてどういうことがやりたいのかということをも具体的に書き込めないとわかりづらいと思う。市町の方の意見も聞かせてほしい。

## 小浜市

- ・骨子案について、できるできないことはあるかもしれないが、目指すべきものを一段高いところから表現するというのはいいことだと思う。
- ・気になっている点は取組みのスケジュール。「市町を跨ぐ移動手段の充実」の具体的なスケジュールについて、バス事業者の方の意見をお聞きしたい。市町を跨ぐとなると隣接市町との協議だけでなく、それぞれの地域公共交通会議にかけなければならないなど、調整・検討する事項が多い。令和3年度から本格実施というのは、現実的には難しいのではないかと思う。

## 事務局

- ・スケジュールについては個別の事業ごとに濃淡をつけるべきと考えている。

## 小浜市

- ・骨子案については概ねこういった書き方でよいと思っているが、〇〇を検討していく、〇〇を実施していくという表現にした方が今後動きやすいのではないかと思う。現時点で無理なものは外すべきだと思う。

## 川本会長

- ・バス事業者の方のご意見もお聞きしたい。

## 西日本JRバス

- ・バス事業者としては、少子高齢化もあり運転手の不足は大きな問題だと思っている。小浜線とバスの乗り継ぎを良くするだとか、現状の便をどのようにやっていくかというこ

とになるかと思う。新しい路線をどうするかという話は会社の方針もあるが、現状の問題は運転手不足であるということ。そういったところを考慮しながらうまくやっていければよいと思う。新幹線が来るというのはチャンスでもあり、地域ときちんと話をしながら進めていきたい。

#### 高浜町

- ・骨子案は勉強会も開いて何度も文言を書き直したものであり、事業者の方にやってほしいことも書いてあるし、市町としてやっていきたいことも書いてあるのでこれでよいと思う。
- ・ただ、外に出たときに「やることが決まった」と思われないように、あくまでも方向性のここを目指しますということが伝わればよいのではないかと思う。

#### おおい町

- ・10数年前にJRの担当をしており利用促進など検討していたが、骨子案の書き方は当時と同じような文言が並んでいるような気がする。具体的な事業内容を進めていけば骨子案の方向性につながるのではないかと思うので、これでよいと思う。
- ・ただ、事業主体に県が少ないのではないか。市町や事業者がするという事は理解できるが、もう少し県も事業に関わってほしい。

#### 敦賀市

- ・骨子案の表現については、これまでの方と同意見。
- ・県では骨子案を議会に示すとのことだが、説明のスケジュールは。

#### 事務局

- ・協議会での検討状況については次の議会で説明したいと思っている。事業主体や事業のスケジュールなどまだ議論が必要なところもあり、説明の際は骨子案を使いたい。

#### 敦賀市

- ・次の9月議会で、骨子案レベルで説明されるということだと思うが、前任者から聞いている話では、県から市へ説明をお願いしているが実現していないということもあり、それがいつ実現するのかと思っている。
- ・事業主体に市町と事業者が中心で県が少ない。もう少し、県が主体的に関わってほしい。

#### 若狭町

- ・骨子案については、このレベルになろうかと思う。策定の目的にもある「新幹線敦賀開業に向け」とあり、スケジュールについては、開業までの時間もなく、できるものは具体的に表現すべきだと思う。
- ・今後検討していくとのことだが、実施の協議が重要ではないか。計画を策定し、公表した後も、この協議会で実施に向けた議論をしていってほしいと思う。

## 美浜町

- ・骨子案としては異論ない。
- ・今後についてはこれから細部を検討することになるのだろうが、実施できるものの中には、6市町だけでは進みが難しいものもあろうかと思うので、引き続き県もかかわってほしい。例えば、今年、嶺南振興局にプロジェクト推進室が設置された。そうした部署の関わり方も含めて考えてほしい。来年度以降も検討を続ける部分については、これまでの検討体制で続けていってほしい。
- ・骨子案にはやりたいことや、やってほしいことをほとんど挙げてあると思うし、新幹線開業までにできればよいと思うが、予算の確保ができてやれること、すべてを開業までにできるのかなと思う。町として観光戦略も立てていかなければならない中、こういった上位計画で可能であるとなると、町の計画も変わってくる。できるということであれば、町もそれをあてにして動くことになるので、しっかりと方針とスケジュールを示していただき、やっていかないといけない。事業者、特に市町の要望によってこの骨子案ができたのだと思うが、いつも県としてどうあるべきというのが抜けていると思う。市町が考えるからそれだけでいいという話ではなく、福井県を考えた場合に他の県と比較して、やらないといけないこと、他県が実施していることで県がリーダーシップをとっているような実例があるはずなので、福井県もそのレベルはあげていただき、市町ばかりに言うのではなく県としてこうあるべきというものがないといけない。事業主体として県が少ないというのはそういうことかと思う。知事も替わって、嶺南振興局も新体制で、嶺南の市町のために流れを作るということであればもうちょっとしっかりやってほしい。市町より上位の立場でリーダーシップをとってやってほしい。

## 嶺南広域行政組合

- ・施策の中身は実現のハードルが高いものでもどんどんあげていくというのが計画としては適切だと思う。できるかどうかについては都度検証していくということなのでよいと思う。組合の管理者は嶺南市町の首長であるが、管理者の会合では網計画の進捗状況が見えてこないという話を聞く。嶺南の首長や議員にも説明が必要かと思うが、公表のタイミングについてはよく検討していただきたい。

## 野村委員

- ・1年に3～4回電車を使って東京に帰っているが、感じることは都会でやれることをなぜ福井、小浜、敦賀ではできないのかという疑問を持ちながら協議会に参加している。東京にいと車のほうが時間がかかる。こちらでは電車のほうがうんと時間がかかる。東京駅から実家に帰るのにパスモがあれば何に乗っても切符を買ったりすることはない。そういったことが東京でできて、地方ではできないというのは、行政がしっかりふんばって東京と地方との格差をなくすようなことをやっていかないと、弱いところはどんどん弱くなっていく。骨子案については、私も住民にアンケートをとったのだが、ほぼ同じ意見だったので、これでよいと思う。

#### 川本会長

- ・骨子案については、細かい点は調整の余地があるが、だいたいこの線でということ。評価指標について、意見があまり出ていなかったがどうか。

#### 西日本旅客鉄道金沢支社

- ・骨子案のアンケート結果として、住民の鉄道やバス等に対する不満の詳細を見ると、住民の半数以上がわからないという結果になっている。これは極端な車社会で公共交通に誰も目が向いていないということと同義だと考える。事業者目線でいえば、お客様のご利用に応じて優先順位を付け施策を打たなければならないという考え。例えばＩＣカードについて強い要望をいただいているが、小浜線よりもご利用の多い未投入線区もあり、ご利用状況を踏まえながら経営判断をしていかざるを得ないことはご理解いただきたい。車社会になっている現状において、公共交通に対する不満について５～７割の人が「使わないから知らない」といった回答となってしまう状況を改善する必要があると考える。公共交通利用による環境負荷の問題の提起などで公共交通に目を向けていただく努力をする必要があるのではないか。それを何らかの形で指標に入れることで、「知らない」という方が５～７割が３～５割に変われば、この状況も変わるのではないかと考える。

#### 川本会長

- ・具体的にそれをチェックする指標は、現時点の案ではわかりにくい。アウトカム、投入している部分は、モビリティマネジメントの件数などあるが、それによって住民がどれだけ関心を持っているかが分かることを押さえられるとよい。これについては、まとめるときに再確認させてほしい。

#### 事務局

- ・これまで、市町や関係者の意見を聞きながら協議して案を提示してきた。鉄道に関しては計画に限らずＪＲと今後も話し合いをさせていただきたい。
- ・首長等への説明については、必要だとは思っている。集まる場がなければ個別に対応させていただくなど、また相談させていただきたい。

#### 川本会長

- ・細かい点や意見については今後また修正案を示したいと思うが、本日の骨子案やその他資料については概ねご了承いただいたということで。

#### 事務局

- ・骨子案や事業スケジュールなどについては今後また照会等させていただく。次回の協議会についてもその時にあわせて相談させていただく。

## 5 閉会